

今号の内容

- 閉じ込め症候群 ある患者さんの手記より
- 医療福祉相談部通信 介護保険制度について
- 抗血小板薬
- 退院患者疾患別統計
- ABI/baPWV 検査について
- 第8回 STROKEセミナー

2月の風景
絵下山

写真提供:広島県

当院では病院の1Fフロアで「FON」の無料インターネット接続サービスが利用できます。ご希望の方は医事課までお問い合わせください。

閉じ込め症候群 ある患者さんの手記より



院長 若林 伸一

手紙と一箱のオレンジが自宅に届きました。今から20年以上も前に私が主治医であった女の子のお母さんからでした。当時私は、静岡の総合病院に脳外科研修医として勤務していましたが、救急当直をしていたある日、頭痛とおう吐で風邪を疑われた7歳の女の子が紹介されて受診してきました。ところがその子は大きな動脈瘤が破裂したくも膜下出血で、非常に困難な長時間の手術のあと重度の意識障害と四肢麻痺になってしまいました。私はその手術の後まもなく大学病院に転勤となり、その後の経過についての詳細は知りませんでしたが、手紙には、当時の感謝の気持ちと、女の子は劇的に回復し多くの詩や絵を残し障害者への理解を呼びかける活動を続けておられたこと、しかし10年前にお亡くなりになっていたことなどがつづられていました。当時だれもが重度の意識障害だと思っていた状態はいわゆる“閉じ込め症候群”であり、手術直後から鮮明に記憶がのこっていたということが後に発行された詩集に記載されていました。

気がつくと、真っ暗で何も見えずおしゃべりもできず、手や足が動きませんでした。私はどうしていいか、どうすればいいか、わかりませんでした。お母さんの声が聞こえました。「ちなつ、おきてちょうだい」と言っている声が聞こえました。お父さんやお姉ちゃんたちの声も聞こえました。でも私は声が出なかったのでとてもつらかったです。何も見えなかった。まっ暗でよかった。みんなが来てくれたのに何もできなくて悲しかったです。（“はるのかんじ” 鈴木千奈津 詩集より）



20年以上の歳月を経て改めて多くのことを教えられました。意識がないと思われる患者さんであっても、閉じ込め症候群のように感覚や感情が残っている可能性があるということを常に念頭におき、患者さんからの訴えがなくても苦痛や要求を感じとれるように努めていきたいと思えます。

抗血小板薬

脳神経外科（非常勤） 東森俊樹
（東京医科歯科大学 血管内治療科）

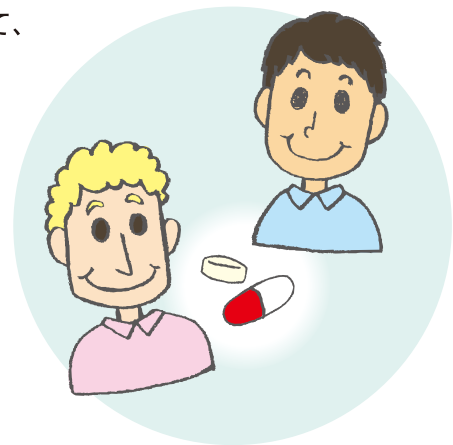
当院にて、沢山の方を診させて頂いている脳梗塞、そして血管内治療を受けた方々には、抗血小板薬が欠かせません。血をサラサラにする薬を飲んでますか？と聞かれるあれです。今回はこの薬に関係したお話です。

血は御存知のように、出ると固まる。固まらないと困る訳ですが、その過程には色々な段階があります。血液の成分である血小板がくっつきあって凝集するという過程も重要な一つです。この反応を抑えることで、脳の微小な血管内の血流を改善させて（サラサラ流れるようにして）治療に結び付けるための薬が抗血小板薬です。実際の名前は、アスピリン、プレタール、プラビックス、その他であり、聞き覚えのある方は多いのではないのでしょうか。

脳動脈瘤や頸動脈狭窄の治療のために血管内治療を行う際にも、これらの薬を調整して飲んで頂いています。手術後も継続して飲む必要があります。脳梗塞ではともかく、血管内治療ではそもそもなぜ？と尋ねられることも多いのですが、何もせずに血管の中に治療のためにコイルやステントを入れると、その金属（プラチナやチタン）が血小板を刺激して血管が詰まるきっかけとなってしまうため、それを予防するためなのです。ただし、そのうちにコイルやステントの上に膜が覆って保護してくれるので、様子観察の後に薬を終了したり、減量したりするようにしています。

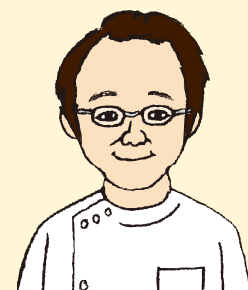
血は採るとすぐに固まりだすので、血液が固まること自体はなかなか測定することが困難です。そうしたなかで昨今、部分的ではありますが血小板の凝集について比較的簡便に計測可能な機器が開発され、世界中でデータを検証しています。抗血小板薬について、内服する分量は体重などで調整していますが、想像していたよりも薬の効き具合に個人差があり、なかには抵抗性がある方もいて、その割合は欧米よりアジア人に多い傾向も認められています。原因遺伝子もいくつか判明しているので、将来的には対策ができることが期待されています。我々も、最新の情報に合わせて、役立つものがあれば調整していきます。

毎日飲んで頂いている抗血小板薬についてお話ししました。1～2回の飲み忘れで大慌てするほど強い薬ではありませんが、脳梗塞治療や血管内治療前後には欠かせない薬です。処方のある皆様にはぜひ規則正しく内服頂き、もし変化や疑問がある場合は、外来あるいは薬局やスタッフに御相談ください。



ABI/baPWV検査について

脳神経内科医長 今村栄次

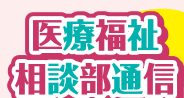


当院では主に脳血管障害を専門に診療しています。脳血管障害を起こされる方の多くに動脈硬化が存在し、頭頸部の動脈の動脈硬化が原因で脳梗塞を起こされる方は増加傾向です。動脈硬化は全身の動脈で起こり得ます。

上肢や下肢の動脈硬化の程度、血管の狭窄や閉塞などを推定する検査として、当院でもABI（足関節上腕血圧比）/ PWV（脈波伝播速度）検査を2011年7月から行っています。ABI検査は足首と上腕の血圧を測定し、その比率（足首収縮期血圧/左右の上腕収縮期血圧の高い方）を左右それぞれで計算します。ABIの値が0.9以下の人は異常で、下肢の血管が細くなっていること（狭窄）が予想されます。狭窄が強い人は手術が必要となることもあります。PWV検査は、心臓の拍動（脈波）による血管の振動が動脈を通じて手や足まで伝達する速度を測定するものです。PWVは年齢や血圧によって正常値が異なります。当院で使用している機器では、血管年齢を計算してくれます。

検査方法は、写真のようにベッドの上で仰向けになっていただき、両側の上腕と足首に血圧計の帯（カフ）、心電図の電極、胸の上に心音マイクを装着します。ABIとPWVを同時に測定し、その結果をコンピューターによって数値化します。所要時間は5分程度です。

年齢が65歳以上の方、64歳以下でも50歳以上で糖尿病を罹患していたり、喫煙歴がある方、歩くと下肢にしびれや痛みが出る方、血管年齢が気になる方などは、是非ABI/baPWV検査を受けられることをお勧めします。



介護保険制度について

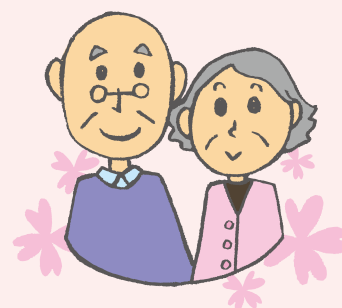
社会福祉士 長谷智子

介護保険の被保険者である65歳以上の方・または医療保険に加入している40歳以上65歳未満の方で特定の病気になった方のうち、何らかの介護が必要になった場合、要支援1から要介護5までの「介護認定」を受けることでご自宅や施設でのサービスが1割の負担で利用できるようになります。この認定を受けるためには、最寄りの区役所で申請していただくか、各地域包括支援センターのケアマネージャーさん等に申請の代行をお願いすることもできます。

入院中は「退院が決まらないと申請できないんですか?」というご質問を受けることもありますが、病状が安定していれば入院中でも申請をすることができます。また、申請から認定結果が出るまでに約1ヶ月を要します。

日常生活に何らかの介護やサービスが必要になった時に適切に利用し、安心・安全に生活を整えることができるよう、しっかりと準備することが重要です。

ご不明な点や入院中その他ご心配なことがある場合は、医療福祉相談室までお気軽にご相談ください。



退院患者疾患別統計

| | 2008年 | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 脳血管障害 | 977 | 910 | 981 | 937 | 876 |
| 虚血性脳血管障害 | 685 | 611 | 679 | 685 | 655 |
| 脳動脈瘤 | 104 | 103 | 127 | 86 | 72 |
| 脳内出血 | 170 | 177 | 157 | 151 | 136 |
| その他 | 18 | 19 | 18 | 15 | 13 |
| 頭部外傷 | 171 | 155 | 164 | 116 | 62 |
| 慢性硬膜下血腫 | 72 | 65 | 69 | 66 | 54 |
| 脳腫瘍 | 30 | 55 | 33 | 12 | 28 |
| その他 | 358 | 384 | 407 | 357 | 400 |
| 総数 | 1608 | 1569 | 1654 | 1488 | 1419 |

| | | | | | |
|------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 脳外科 手術件数 | 264 | 223 | 250 | 244 | 219 |
| t-PA 施行件数 | 9 | 13 | 20 | 17 | 17 |

第8回

STROKE セミナー

副院長・脳神経内科主任部長 野村栄一

2012年11月21日にオリエンタルホテル広島において第8回STROKEセミナーが開催されました。若林院長のOpening Remarksに続いて、当院の今村栄次脳神経内科医長から「ABIと脳梗塞」、広島赤十字・原爆病院の加世田俊一副院長から「心房細動と心原性脳梗塞予



防」を講演して頂きました。

総勢50名をこえるご参加を頂き、懇親会も含め盛況のうち終わることが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。今後も「顔の見える地域連携」を目指し、定期的に企画していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

医療法人 翠清会 **梶川病院**

TEL 082-249-6411
FAX 082-244-7190

〒730-0046 広島市中区昭和町8-20
<http://www.suiseikai.jp>

